ふりがな　　ありよし　あきら

氏 名　　有吉 章

1. 学歴

1976 年　3 月　東京大学工学部卒業
1979 年 10 月　オックスフォード大学大学院経済学研究科入学
1981 年 10 月　オックスフォード大学 D.Phil.（経済学）学位取得

2. 職歴・研究歴

1976 年　4 月　大蔵省入省
1981 年　7 月　同省大臣官房調査企画課財政金融研究室研究官
1982 年　7 月　福岡国税局大牟田税務署長
1983 年　7 月　大蔵省国際金融局国際機構課課長補佐
1984 年　7 月　国際通貨基金アジア局エコノミスト
1987 年　5 月　同基金為替貿易管理局エコノミスト
1988 年　7 月　大蔵省銀行局特別金融課課長補佐（中小金融担当）
1989 年　7 月　同省銀行局検査部管理課課長補佐（総括）
1990 年　7 月　福岡国税局直税部長
1991 年　6 月　欧州復興開発銀行東欧局シニアエコノミスト
1993 年 11 月　同行調査局シニアエコノミスト
1994 年　7 月　大蔵省大臣官房企画官（銀行局銀行課担当）
1995 年　7 月　同省証券局証券市場課公社債市場室長
1996 年　7 月　同省証券局総務課調査室長
1998 年　8 月　国際通貨基金金融為替局局長補
1999 年　5 月　兼　同局為替市場制度課長
2000 年　7 月　金融庁総務企画部企画課長
2001 年　1 月　金融庁総務企画局企画課長（省庁再編に伴う名称変更）
2002 年　7 月　財務省国際局総務課長
2003 年　7 月　財務省副財務官
2004 年　7 月　財務省大臣官房審議官（大臣官房信用機構課，政策金融課担当）兼財務総合研究所次長
2005 年　7 月　財務省大臣官房審議官（国際局担当）
2005 年 10 月　国際通貨基金アジア太平洋地域事務所長
2010 年　4 月　一橋大学教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（b）大学院

Macroeconomics: Theory and Policy（国際・公共政策大学院）
International Finance and Economy（国際・公共政策大学院）

Financial Economics（国際･公共政策大学院）

B. ゼミナール

大学院（国際･公共政策大学院アジア公共政策プログラム）

C. 講義およびゼミナールの指導方針

経済官庁･中央銀行職員として理論と政策のバランスのとれた知識と能力の涵養を目指す。

4. 主な研究テーマ

国際金融，国際通貨制度，金融規制

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書･編著

Capital Controls: Country Experiences with Their Use and Liberalization, co-authored with Karl Habermeier et al., International Monetary Fund, May 2000

『図説国際金融』，財経詳報社，2003 年 7 月（編著）

（b）論文（査読つき論文には*）

"Japanese Capital Flows", in *Finance and Development*, September 1988, pp. 25-28

"International Capital Mobility and Domestic Financial System Stability: A Survey of Issues" (co-authored with V. Sundararajan and I. Otker-Robe), in O.E.G. Johnson ed., *Financial Risks, Stability and Globalization*, International Monetary Fund, 2002, pp. 426-472

「国際公共財としての国際通貨制度の変遷」『ファイナンシャル･レビュー』第 75 号，2005 年 2 月，99-122 頁

「国際金融組織の機能変化－IMF の機能と役割」『ジュリスト』第 1301 号，2005 年 11 月 15 日号，58-61 頁

"Asia: Shaping the Global Monetary Order", in *The Euromoney Asia-Pacific Capital Markets Handbook 2009*, September 2008, pp. 1-3

「アジア通貨危機とIMF･日本」コメント『国際経済』，2008 年 59 号，30-32 頁

「ユーロ改革の行方～財政統合なき通貨統合は存続可能か～」『金融』第 771 号，2011 年，3-10 頁

"Lessons Learnt, Lessons not Learnt, and Lessons to be Learnt: From the Asian Crisis to the European Crisis", in *Who will Provide the Next Financial Model ? Asia's Financial Muscle and Europe's Financial Maturity* , Eiji Ogawa and Sahoko Kaji (eds.), Springer, February 2013

"Coping with Capital Inflow Surges: Reviewing the IMF's New 'Institutional View' ", Japanese Journal of Monetary and Financial Economics, Vol1., No.1(August 2013), pp.25-36

"Navigating the Financial Regulator's Impossible Trinity", in *Financial System Stability, Regulation, and Financial Inclusion*, ADBI Institute Series on Development Economics, Springer, 2015.

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告･招待講演には*）

*「ユーロ危機、日本国債とストレスシナリオ」（ジャパン･リスク･フォーラム，東京，2012年4月）

"Lessons from Japan's Bubble"（JICA-Vietnam Ministry of Finance Seminar，2012年7月）

*"What Have We Learned from the Crises? – The Debate on Macroeconomic and Financial Policies"（Academy of Financial Services and Japan International Cooperation Agency Seminar Series Inaugural Seminar.（コロンボ，2013年8月28日））

*"Financial System Stability and Competition in the Financial Industry"（JFSA-ADBI-IMF Conference on Financial System Stability, Regulation and Financial Industry, 2014年1月27日）

* "The World Economy: Outlook and Issues" AFS-JICA Seminar（コロンボ，2014年9月1日）

*「ジャパンリスクとストレスシナリオ」（ジャパン・リスク・フォーラム，2015年9月7日）

*「不確実性の高まる世界経済とアベノミクスの行方」（ジャパン・リスク・フォーラム，2016年9月5日）

（d）研究集会オーガナイズ

ジャパン・リスク・フォーラム（2012年4月18日，2015年9月7日，2016年9月5日）

Hitotsubashi-IMF Seminar on Macroeconomic and Financial Issues（2014年1月23－24日，2015年3月12－13日，2016年3月3－4日）

6. 学内行政

（a）役員・部局長・評議員等

国際・公共政策大学院アジア公共政策プログラム　プログラム・ディレクター （2011年9月 －2015年9月）

7. 学外活動

（b）所属学会および学術活動

日本金融学会

国際経済学会

ジャパン・リスク・フォーラム（会長）

（d）その他

IMF-World Bank Annual Meetings Seminar 'Building Future Capacity: Drawing on 50 Years of Experience'（2014 年 10 月 5 日）

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

財務省IMF研究会委員（2010年6月 － 現在）

JBIC−インドネシア財務省 Financial Policy Dialogue 外部専門家（2011，2012年）

JICA スリランカ財務総合学院国内支援員会（2014年度，2015年度）

ASEAN+3マクロ経済リサーチオフィス・諮問員会委員（2015年6月 － ）

大学基準協会，公共政策系専門職大学院認証評価委員会委員，分科会主査（2014，15年度）

9. 一般的言論活動

「なぜストレスシナリオの検討が必要なのか－国債危機を例として」『週刊金融財政事情』，2012 年，第 63 巻 32 号，38-42 頁

「銀行同盟，EU の底力試す」『日本経済新聞』，2012 年 8 月 13 日，45447 号，17 頁

「なぜギリシャを助けなければならない？　国際金融危機とその解決法を探る」，一橋大学経済学部編『教養としての経済学　ー　生き抜く力を培うために』，有斐閣，2013年2月，28-35頁

「アベノミクスのリスク度合い」『日本経済新聞』，2013年5月8日，45707号，29頁

「アベノミクスの成功確率」『週刊金融財政事情』，2013年，第64巻35号，26-3頁 （大久保琢史と共著）

「新興国経済、危機に備えを」『日本経済新聞』，2014年2月17日，45985号，21頁

「量的緩和、対デフレへ賭け」『日本経済新聞』，2015年2月2日，46326号，19頁